

News Letter

ニュースレター

2021.9 vol.119



特集◎ 新たな時代のまちづくり交流拠点へ 名古屋都市センター設立30周年

Report

世界運河会議NAGOYA2020 ダイバーシティセッション

まちづくり来ぶらり
中秋の名月

新たな時代のまちづくり交流拠点へ

名古屋都市センター設立30周年

世界運河会議 初めてのオンラインによるワークショップの開催に挑戦



たがねランド 子どもたちに向けた、まちづくり体験型学習プログラム



フォトワークショップ



市民向けのまちづくり講座



研究成果報告会

名古屋都市センター30周年の歩み

- 1991.7.15 名古屋都市センター設立
- 1991.10 「ニュースレター創刊」(当初は「名古屋都市センターニュース」)
- 1992.4 「まちづくりライブラリー」開設
- 1999.3 「名古屋都市計画史」発行/金山南ビルに移転/「まちづくり広場」開設
- 1999.4 「特別研究」「市民研究」「研究助成」開始/「まちづくり活動助成」開設
- 2000.3 「来ぶらり」創刊(現在はニュースレターの1コーナーとして継続)
- 2001.4 「まちづくり活動助成“はじめての歩”部門」開設(現在は実施無し)
- 2005.4 「調査課まちづくり支援担当」設置
- 2005.11 「地域の“まちづくりびと”養成講座」開設
- 2006.7 「たがねランド」開始(2014年まで計9回実施)
- 2007.4 「まちづくり活動助成 まち“夢”工事部門」開設(現在は実施無し)
- 2010.3 「まちづくり広場 常設展示コーナー」リニューアルオープン
- 2010.4 名古屋都市整備公社と合併
- 2012.4 「公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター」へ名称変更
- 2013.4 中川運河再生文化芸術活動に対する助成(ARToC10)開始
- 2017.4 まちづくり資料総合案内(MDC)インターネットにて公開
- 2017.12 「名古屋都市計画史Ⅱ」発行
- 2017.4 「まちづくり活動助成 スタートアップ部門」開設
- 2018.6 都市計画法・建築基準法制定 100周年記念 国土交通大臣表彰を受賞
- 2019.3 「まちづくり広場常設展示」一部展示替え
- 2021.4 まちづくり広場天井工事のため閉館
- 2021.7.15 名古屋都市センター設立30周年

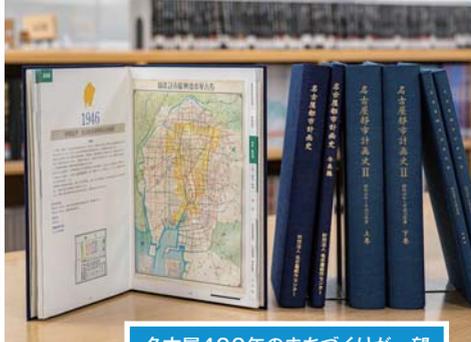
名古屋都市センター誕生の原点

2021年7月15日、名古屋都市センターは設立30周年を迎えました。行政と民間の間に立つ中立・公正な立場でまちづくりに貢献することをめざして歩んできた名古屋都市センターの原点には、復興土地地区画整理事業があります。

太平洋戦争末期の空襲で当時の市域の4分の1を焼失し焦土と化した名古屋は、戦後いち早く新しいまちづくりに取り組みました。点在する墓地の集約・移転や2本の100m道路など、大胆で先進的な都市計画は全国の注目を集めました。1991年、名古屋のまちの基礎を築いたこの大事業の収束を記念して設立されたのが名古屋都市センターでした。当時の諸課題に対応するためには、市民、行政、専門家などがそれぞれの英知を結集し、名古屋の個性を生かしたまちづくりの方向性を明らかにする必要性がありました。それには、まちづくりの関係者を結び交流し



全国に誇るまちづくり専門のライブラリー。
蔵書数は約76,000冊。



名古屋400年のまちづくりが一望
のもとに。名古屋都市計画史

英知を結集する「場」となる機関が不可欠でした。名古屋都市センターは、先人の偉業を讃えその成果を後世に継承するとともに、21世紀の新しい名古屋のまちづくりに寄与する拠点となることを役割として誕生したのです。

まちづくりを深める3つの事業

設立時から柱とする事業は3つ。名古屋のまちづくりや都市計画の新たな課題を掘り起こし、その解決策を見出す先見性のある「調査研究」。学識者、市民、行政などとともに幅広い観点から、施策の提言へとつなげています。「情報収集・提供」は、1999年の金山南ビル移転に伴い強化された分野で、市民のまちづくりへの興味関心を高め深めることを目的に、「まちづくり広場」や「まちづくりライブラリー」の運営のほか、

様々な広報活動等を行っています（現在は天井工事のため一部休館中）。

「人材育成・交流」では、名古屋都市センターのまちづくり基金を活用して、地域でまちづくり活動を行う市民団体に助成を行うほか、まちづくりに関心を持ち積極的なまちづくり活動に取り組む人材を育成しています。2013年からはリンナイ(株)からの寄付を活用して中川運河助成ARToC10事業を実施。中川運河を舞台とする市民、アーティストの交流と創造活動を支援し、中川運河再生の機運を高めてきました。こうした市民によるまちづくり活動の促進は、これからも名古屋都市センターの大切な役割となっていきます。

新たな時代の まちづくり交流拠点として

現在休館中のまちづくり広場は、今後、展示だけでなく「学び・交流」の機能を充実させて、多様な人々がまちづくりについて学び、これからのまちづくりを考え、行動に移すきっかけとなる場となることをめざします。

ポストコロナの時代、大きく変革し様々な課題が絡み合うこれからのまちづくりにおいては、市民・行政・専門家などといった関係者が連携し、物事を横断的にとらえることがこれまで以上に不可欠となるでしょう。これら多様な関係者が集う名古屋都市センターはそのネットワークを活かし、関係者間の連携促進やまちづくりにかかる支援・人材育成などの機能を強化していきます。

そして、「新たな時代のまちづくり交流拠点」として各種事業を展開していき、引き続きこれからの名古屋のまちづくりに貢献していきます。

《都市センターシンボルマーク》



名古屋都市センターの事業の3本柱を羅針盤の針に置き換え、まちづくりの考え方を確実に指し示すことを表したもの。全体のシルエットは「NAGOYA」の「N」をイメージ。

世界に向けて「まちづくり名古屋」の発信を

名古屋都市センターは、名古屋市の外郭団体でありながら独立したまちづくり機関として歩んできた全国的に誇るべき組織です。

優れた活動として、まず「名古屋都市計画史」の編纂があります。これは、江戸時代初期の「清州越し」に始まり西暦2000年に至る名古屋のまちづくりの展開を体系的に整理したものです。充実した資料や関係者のヒアリングを交えた歴史書で、平成13年には「独創的かつ啓蒙的なものであり、都市計画の進歩発展への顕著な貢献」として都市計画学会から表彰されました。

調査研究では、毎年数編のレポートが発表されていますが、中には学会賞を受賞した学術的にも優れた研究があります。大学との連携も進み、まちづくりの具体的なテーマについて教授陣と議論する機会も増えています。これも独立した機関だからこそできることで、今後も優れた調査研究を期待しています。

まちづくりの行事にも積極的に関与し、NPO等の中間支援機関としての活動も活発になってきました。私は「新たな公」を提唱しています。標準的なまちづくりは行政が担いますが、まちを魅力的にするのは市民の力です。まちづくりの担い手を育て、つなげて、支援する役割はますます高まるでしょう。

これらの多様な活動に対し令和元年に都市計画法百周年を記念して、国土交通大臣賞が授与されました。今後は大名古屋圏の知恵袋として、大規模災害やリニア新幹線の開通を見据えて広域的課題にも取り組み、5月の世界運河会議で示せたように、世界に向けてまちづくり名古屋の情報が発信されることを期待しています。

奥野 信宏
名古屋都市センター長



世界運河会議NAGOYA2020 ダイバーシティセッション

世界各地における水辺を活かしたまちづくりの先進事例に学び、これからの中川運河を議論する「世界運河会議NAGOYA2020」が令和3年5月21日(金)～23日(日)の3日間に渡って開催されました。(主催:世界運河会議NAGOYA2020実行委員会 共催:名古屋市・名古屋港管理組合・(公財)名古屋まちづくり公社)

名古屋都市センターは、最終日のダイバーシティセッションの企画・運営を担当しました。このセッションは、2日目に取り上げられた3つのテーマ(「アート&クリエイティビティ」「水辺から始まる都市戦略」「市民・企業が支える水辺マネジメント」)のもと、参加者が3つのテーブルに分かれて同時にワークショップ(以下、WS)を行うというもので、ダイバーシティ(=多様性)のとおり、中川運河で活動している市民、中川運河沿線で操業されている企業、中川運河を舞台に地域と関りながらアート事業を展開されているアーティストなど、多様な方々にご参加頂きました。各参加者は、それぞれの立場や視点から、「中川運河をどうしたいのか」「そのためには何をすべきなのか」など、今後の新たな地域連携の創出につなげていくことを目標に活発な議論がかわされました。(なお、ダイバーシティセッションを含む世界運河会議全体の報告書は、10月頃に作成予定です。)

オンラインによる開催

開催時期が緊急事態宣言期間と重なったため、全てのプログラムをリアルからオンラインに切り替えての開催となりました。各WSの登壇者はオンライン上のミーティングルームで議論を行い、各WSの議論の様子や内容は、随時、名古屋産業大学今永典秀准教授のもと、名古屋都市センターからライブ配信しました。



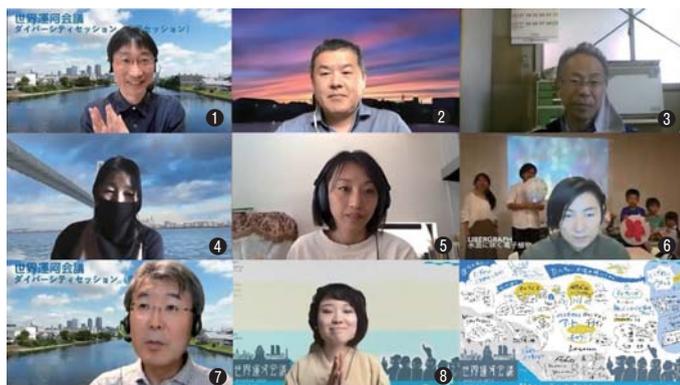
世界の英知を集め、中川運河などNAGOYAの水辺に新たな感動空間を創出する



②④ 本部会場の様子
①③ 今永准教授及び当センター職員からWSの内容を実況中継



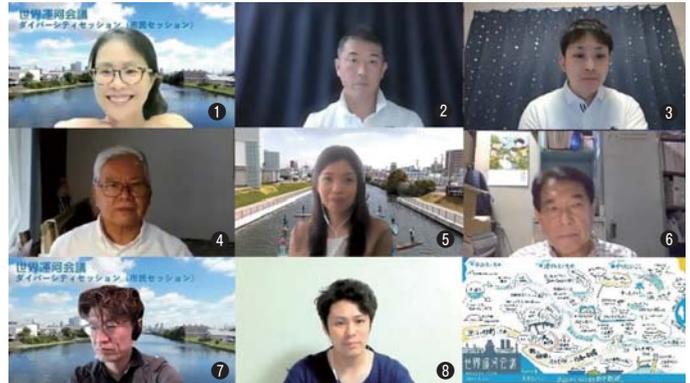
TABLE 1 アート&クリエイティビティ



- アートを通じて、中川運河の魅力が再発見されたり、それによって住民が、シビックプライドとか、アートのまちとしてのプライドみたいなもの、誇りとか魅力を再発見できるとよい。
- 一過性のイベントもよいが、継続し、定着させていくと、そのまちのカルチャーになる。これは、すぐに芽が出るものではないが、やり続けることに意味があり、きっと良い影響が出てくるはず。
- アーティストと企業をつないでいくというのは、すごく大事なアクション。
- 今、ARToC10(中川運河再生文化芸術活動助成事業)の活動と、ものづくり企業とのコラボ企画が始まろうとしている。アーティストによって、企業内に化学反応が起き、クリエイティブなものが生まれる可能性がある。
- こういった様々な人たちが、一堂に集まって話をする「対話の場」が、とても大切。

- ① 稲葉 久之さん(フリーランス・ファシリテーター)
- ② 樋口 哲也さん(リンナイ株式会社)
- ③ 宇佐見 孝さん(宇佐見合板(株))
- ④ あいざわ けいこさん(デザインラボクロス)
- ⑤ 今井 智景さん(Seainx project)
- ⑥ 日栄 一真さん(LIBERGRAPH)
- ⑦ 角谷 裕司さん(テクニカルサポート)
- ⑧ あるが ゆうさん(グラフィックレコーダー)

TABLE 2 水辺から始まる都市戦略



- 中川運河が持っている既存の価値を改めて再認識していくことが必要で、その価値を広めながらも生まれてくる新しい価値を高め、市民の共通財産にしていかなければならない。
- そのために、市民、企業、あるいは子どもたちに中川運河のことを知ってもらい、運河との接点をどんどん増やしていくことが、都市戦略上、非常に重要となる。
- また、中川運河で自己完結するのではなく、松重閘門を開くことによって、名古屋駅、名古屋城、名古屋市全体、そして日本全体から世界のいろんな所へつなげていくことができる。大きな観光資源となり、注目度も高まる。
- ただ、まだ中川運河の使いづらい点は多々ある。使いやすくなるまで待つのではなく、行政と根気よく話し合い、合意形成していくことが、使いづらさを変えていく重要な都市戦略になる。

- ①三田 祐子さん((株)対話計画)
- ②元木 敬文さん(中京テレビ放送(株))
- ③塩澤 彰規さん(富士コーヒー(株))
- ④柳田 哲雄さん(NPO法人伊勢湾フォーラム)
- ⑤川口 暢子さん(水辺とまちの入口研究所)
- ⑥木全 純治さん(シネマスコレ)
- ⑦神田 信司さん(テクニカルサポート)
- ⑧肥後 祐亮さん(グラフィックレコーダー)

TABLE 3 市民・企業が支える水辺マネジメント



- 中川運河は、人や文化を繋げる役割を持っている。人が行きかう場であったり、伝統を次世代につなぐ、地域や学区の垣根を超えるといった、人がつながる、つなげる触媒となっていくとよい。
- 中川運河と、工業に支えられて発展してきたこのエリアは、決してネガティブなものではない。これからの新しい再開発に関して、誇りを持つべき。
- これからは、地域住民が主体となって、水辺というものを足掛かりにして、地域を良くし、持続可能なものにしていくことが大切。
- ここ10年程いろいろなことをやってきたけど、なかなか進まない。次のステップに上がるためにも、一歩踏み出す、実行することが大事。しかし、リスクがあるので前に進めるためにはどうすればいいのか?誰が実行するのか?という点は、非常に大きな問題。

- ①林 加代子さん((株)ソーシャル・アクティ)
- ②今枝 薫さん(東邦ガス(株))
- ③谷口 晋介さん(谷口鑄工(株))
- ④内山 志保さん(愛知大学)
- ⑤鏡味 栄男さん(中川区広見学区区政協力委員長)
- ⑥浅井 信好さん(月灯りの移動劇場)
- ⑦亀井 直人さん(テクニカルサポート)
- ⑧松井 大さん(グラフィックレコーダー)



井澤知旦教授による総括

各テーブルの議論の内容が発表された後、名古屋学院大学井澤教授から、次のような講評をいただきました。「中川運河は名古屋のアイデンティティ。景観は独自性があり、シンボリックでもあるが、その価値が知られていない。価値を認識し、新しい価値を付加していくことが必要。アートを活用、イベントや祭を通して、中川運河を変えていくという熱量を高めることが必要である。ま

た、時代の要請により、運河の役割が産業基盤から市民文化へ転換していくなか、運河に係る規制については行政と市民が小さな行動を積み重ねていくことで突破していくことが求められる。そのためには、対話ができるような人間関係をつくっていくことが必要。」

登壇者からも、「充実した時間を過ごすことができた」「良い刺激になった」などの感想をいただきました。

まちづくり来ぶらり

第86号

まちづくりライブラリー
 全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査報告書なども収集しています。



昭和13年 覚王山付近の土地区画整理図

尾張名所図会 前編巻5 月見坂

中秋の名月

秋は月が美しい季節です。お月見をする方も多いでしょう。

お月見は、もともとは中国の中秋節という祭日が朝鮮・日本に伝わったものと言われています。月を眺めながら酒食を楽しんでいたほか、月餅や枝豆を供えていたようです。朝鮮では里芋団子などの料理が作られ、収穫を祝うほか祖先を祭る日となりました。日本には平安時代に伝わり、貴族階級から庶民へと広まって、月を愛でるだけでなく収穫を祝う行事としても定着しました。

旧暦の秋は7・8・9月。その真ん中が「中秋」です。旧暦では1日は新月のため、15日はほぼ満月にあたります。旧暦8月15日は現在の暦では9月か10月となり、収穫はもう終わっているため、稲穂に形が似ているススキを供えました。団子のほか里芋を供える地域があり、「芋名月」とも呼ばれます。また翌月9月13夜の「後の名月」は、栗や枝豆を供えて「栗名月」「豆名月」の名でも親しまれ、芋名月と組になっています。お月見が作物と関係の深い行事であることが伺えます。

昔から月に親しんできた日本人ですが、名古屋には月見の名所として名を残している場所があります。地下鉄覚王山駅近くの、千種区月見坂町、観月町です。この辺りは高台にあり、現在は住宅街ですが昭和初期に区画整理がされるまでは山や田畑が広がっていました。江戸時代に描かれた尾張名所図会には、当時の月見坂で月を眺める人々が描かれています。

今年の中秋の名月は9月21日です。月を眺めながら、昔の名古屋に思いを馳せてはいかがでしょうか。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『世界大百科事典』(Aa-ㄨ)

『尾張名所図会絵解き散歩』(Sc-7)

『名古屋市田代土地区画整理(覚王山、本山、東山公園界隈)街づくりの歴史とその今を歩く』(Sc-カ)

◆参考HP◆

レファレンス協同データベース
[https://crd.ndl.go.jp/reference/\(2021/6/19参照\)](https://crd.ndl.go.jp/reference/(2021/6/19参照))

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『もりのこえ』

著者：田代千里
 出版社：伊藤忠商事
 請求記号：Fg-タ

「愛・地球博」のマスコットキャラクター「モリゾー&キッコロ」をもとにした絵本です。キッコロは、「もりのこえ」が聞きたくて、森の奥に入っていく、迷子になってしまいます。行く先々に聞こえる声に耳をすますと……。地球温暖化が進むなかで、森を守ることの大切さを伝えてくれます。



『名古屋鉄道あるある』

著者：小林清輝
 出版社：TOブックス
 請求記号：Se-コ

名古屋鉄道は、よく利用しているけれども、その歴史や各線の特徴などについては、あまり詳しく知らないという人もいます。本書は246の解説により、名古屋鉄道の各線や各駅について、いろいろな知識を読者に教えてくれます。一読してみることで名古屋鉄道に乗る楽しみが増すでしょう。



『中高年のための「読む防災」最新版』

著者：和田隆昌
 出版社：ワニ・プラス
 請求記号：Ma-7

「新型コロナウイルス」の世界的感染拡大が続くなかで、さらに巨大地震などいくつもの災害が加わる、「複合災害」に見舞われる可能性も高まっています。本書はこういった事態に陥った時の防災について、わかりやすく解説しています。一読しておけば、災害時に安心・安全な行動をとることができます。



1

令和3年度のまちづくり活動助成 助成団体が決定しました。



都市センターではこれからまちづくり活動を始めるグループや活動初期の団体のスタートアップを助成しています！

今年も、コロナ禍で活動に制約がある中、熱意と工夫あふれる多くの応募をいただきありがとうございました。その中から、今年の活動助成団体は、以下の11団体に決定しましたので、ご紹介します！

●団体名 《活動内容》

助成1回目

●港まちえんがわプロジェクト

《若者たちがまちづくり・場づくりに関わるきっかけを作る活動》

●正色学区生活安全委員会

《かつての漁師町であるこの学区の魅力向上させ、安心して暮らせるまちに》

●大門DIVE!実行委員会

《大門地区の外部に住む人の視点で、まちの魅力を発信》

●ニシヤマ・イバショラボ

《イベント等を通じて、地域住民同士のコミュニティとまちの「居場所」をつくる》

助成2回目

●名古屋水域研究会

《残存する舟運遺構を再現利用し、活用の可能性を探る》

●気軽にすけっと

《地域住民がお互い様の助け合いを通して相談・解決できる場づくり》

●池上台ハウス管理運営委員会

《まちの縁側のような穏やかなたまり場づくり》

●片平学区子育て支援ネットワーク連絡会

《子供たちの健全な育成支援と子育て環境の整備・拡充》

●ハピサンBooks

《本を介して、幅広い年代によるコミュニティづくり》

助成3回目

●梅が丘三世を繋ぐ会

《三世を繋いだ交流活動で顔の見えるまちづくり》

●桃山学区防災ミーティング

《学区で防災関係の話し合いをする場づくり》

詳細はWebサイト

「助成団体の活動紹介」からご覧ください



2

映像にて情報発信しています！

名古屋都市センターでは、令和2年度に当センターにおいて実施した調査研究の成果を、「研究の概要」や「研究報告書」といった文字情報と併せて、映像(スライド及び調査研究担当者による説明)で発信しています。

また、令和3年6月16日(水)に開催した名古屋都市センター

30周年記念まちづくり講演会「都市地理学から見た名古屋のまち ~Vol.3~」で収録した映像(スライド及び講師による講演)を、YouTubeにて配信しています。

それぞれの情報発信に関する詳細や視聴方法等につきましては、名古屋都市センター公式ウェブサイトにてご確認ください。

3

名古屋都市センター まちづくり広場・まちづくりライブラリー 天井工事に伴う休館について

名古屋都市センターでは現在、天井工事に伴い、まちづくり広場を休館しています。また、まちづくり広場内にある喫茶コーナーにつきましても休業しています。

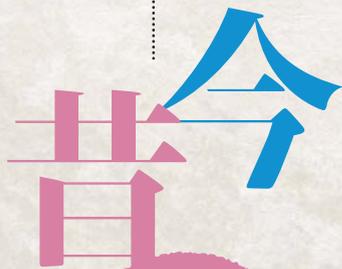
12階まちづくりライブラリーについては、天井工事に伴う影響を考慮し、工事が行われる平日は休館していますが、工事が行われない土曜日・日曜日や一部の祝日については開館し、通常どおりのサービスを実施します。

再開時期については、詳細が決まり次第、当館の公式ウェブサイトなどを通じてご案内いたします。

再開に際しては、名古屋都市センター及びまちづくり広場・まちづくりライブラリーが市民にとってより身近な存在となるよう、準備を進めています。

ご利用のお客様には大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。





櫻田の古覽

名古屋を代表する景勝地

「櫻田」(桜田)とは、桜という地域に存在する田のことです。*1 現在も名古屋市南区区内に「元桜田町」として地名が残るほか、この地に建つ学校名(桜田中学校)として、その土地に深く刻まれています。

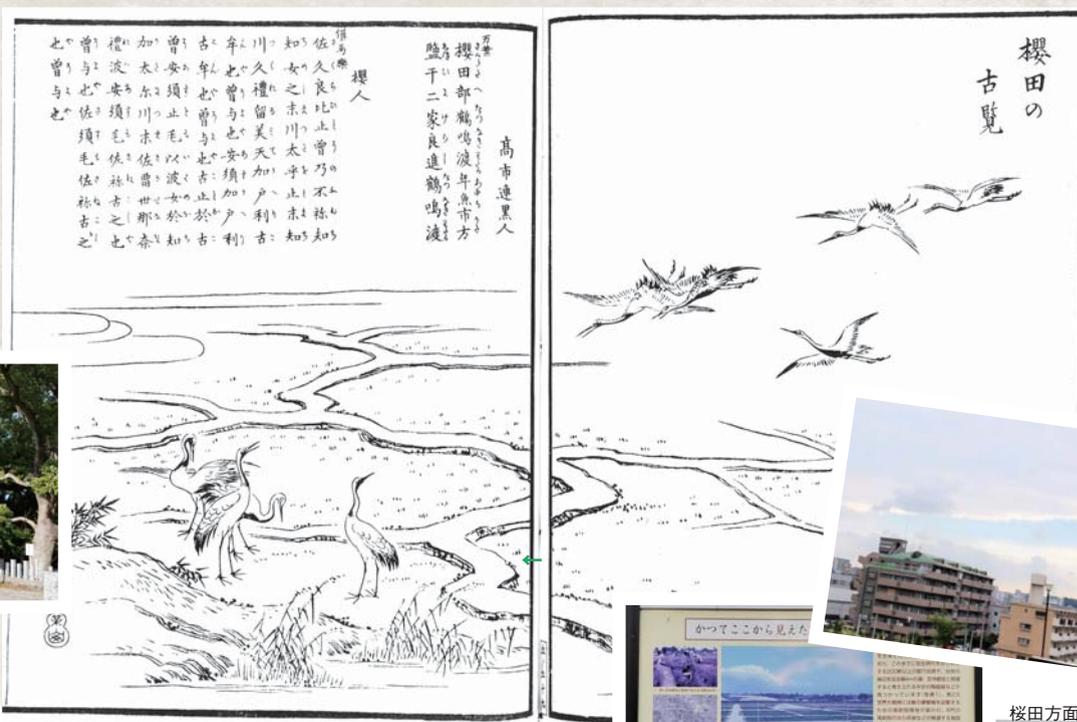
この絵は、江戸時代後期に出版された「尾張名所図会」に描かれたものです。上部には、「万葉集」に収録されている和歌が書かれています。この絵は、その和歌をモチーフにして描かれたものであると思われます。

～桜田へ 鶴鳴き渡る 年魚市 瀉 潮干にけらし 鶴鳴き渡る～ …「桜田の方に鶴が鳴きながら渡っていく。どうやら年魚市(あゆち)瀉の潮が引いたらしい」*2といった意味です。

この地では長らく水田が広がっていました。桜田の西側に位置する高台からの眺望は、かつて「桜田勝景」と呼ばれていました。大正13(1924)年の新愛知新聞(中日新聞の前身のひとつ)による「名古屋十名所」でも、桜田勝景が7位にランクイン。長らくここは、名古屋を代表する景勝地だったようです。

現在、この高台から眺める景色は住宅が立ち並び、今では歌に詠まれたころの面影は残っていません。しかし、この高台に位置する桜田八幡社の境内には、桜田勝景跡として石碑や立札などが残されており、今でも当時の櫻田の情景に思いを馳せることができます。

*1 南区史p.8 *2 桜田勝景の石碑



桜田勝景跡が残されている八幡社(名古屋市地下鉄桜通線鶴里駅から徒歩7分)



櫻田勝景の石碑

〈参考文献〉※()内はまちづくりライブラリーの請求番号です。
 『なごやの町名』名古屋市計画局／編(Se-カ)
 『南区制100周年記念誌』南区制100周年記念事業実行委員会／編(2B21-2008)
 『南区誌 区制七十年の歩み』名古屋市南区役所／編(2B21-79)
 新愛知新聞 大正14年8月14日号



八幡社に近い笠寺公園に立つ看板
 昭和30年代まではまだ水田が広がっていたことがわかる。

桜田方面の景色。水田に代わり住宅が立ち並び。かつての面影はないが、見晴らしの良さは今も残っている。

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

http://www.nup.or.jp/nui/



利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場(展示スペース・ホール)

休館中

【12階】まちづくりライブラリー

土曜日・日曜日 開館(10:00-17:00)

月曜日～金曜日 休館

ただし、月曜日・金曜日が祝日の場合は開館(10:00-17:00)

※月曜日(祝日)・金曜日(祝日)・土曜日については、工事の状況によっては休館する場合があります。ご来館の際は、名古屋都市センター公式ウェブサイト内休館カレンダーにてご確認ください。



SNSやっています!

